



「広瀬川1万人プロジェクト」による広瀬川流域一斉清掃

【普及啓発・広報編】

case
05

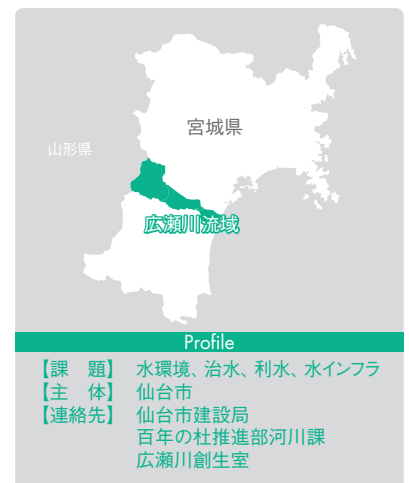
仙台市(宮城県)

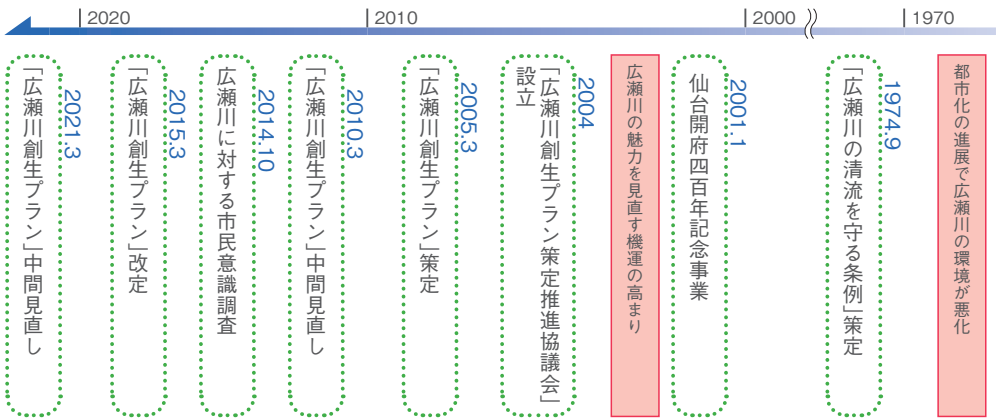
情報共有と体験活動で広瀬川の仲間をつなぐ

《広瀬川創生プラン》 ～市民協働による取組事業の推進～

「杜の都・仙台」のシンボルである広瀬川の豊かな自然環境の保全や安全安心な川づくり、そして新たな魅力の創出について、市民と協働で取組を推進していくため、仙台市は「広瀬川創生プラン」を2005年3月に策定し、2015年3月に改定しました。このプランは、市民・NPO・企業・行政などの多様な取組主体に期待する役割や計画を効果的に推進するための具体的な取組をとりまとめた行動計画です。

このプランの策定に先立ち、仙台市では広瀬川のポータルサイトとして「広瀬川ホームページ」を立ち上げ、広瀬川に関する遊びや学びの情報と機会の提供を通じて、普及啓発に取り組んできました。2021年にはプランの中間見直しを行い、新たな推進体制や「広瀬川インスタグラム」などの広報ツールの拡充に取り組んでいます。





計画の概要

これまでの取組

都市化の進展で広瀬川環境が悪化

「広瀬川の清流を守る条例」策定

2001.1 仙台開府四百年記念事業

「広瀬川創生プラン」策定

2004 「広瀬川創生プラン」策定推進協議会設立

2005.3 「広瀬川創生プラン」策定

2010.3 「広瀬川創生プラン」策定

2010.10 「広瀬川創生プラン」中間見直し

2014.10 「広瀬川創生プラン」中間見直し

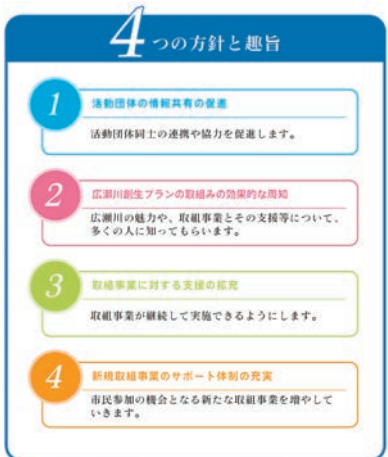
2015.3 「広瀬川創生プラン」改定

2021.3 「広瀬川創生プラン」中間見直し

市民協働による行動計画

広瀬川は、奥羽山脈の関山峠付近に源を発する名取川水系名取川の支流の一つです。仙台の中心部を流れていることもあり、古くから仙台に住む人々の生活を支え、都市の発展に貢献するなど、仙台市民にとってシンボルの川となっています。

このシンボルとなっている広瀬川の魅力を、次世代に引き継いでいくためには多くの市民が広瀬川に親しみ、その魅力を感じることが必要です。広瀬川創生プランは、広瀬川に親しめる活動を実施している市民や市民活動団体などに期待する役割や、支援内容等を取りまとめたものです。広瀬川の自然環境の保全、広瀬川と共生する暮らしの発見や創出、市民による連携及び市民と行政との協働を基本理念に、6つの基本目標とそれらを具体化するための市民・NPO・企業・行政などが主体となる取組事業で構成され、2005年度から2014年度までの10年間の行動計画として策定されました。その後、2015年3月に改定し、広瀬川の更な



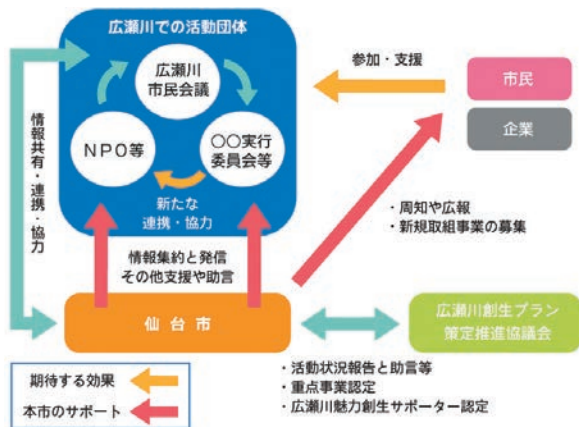
中間見直しの方針と趣旨

る魅力創出に向けて市民協働を基本に推進しています。

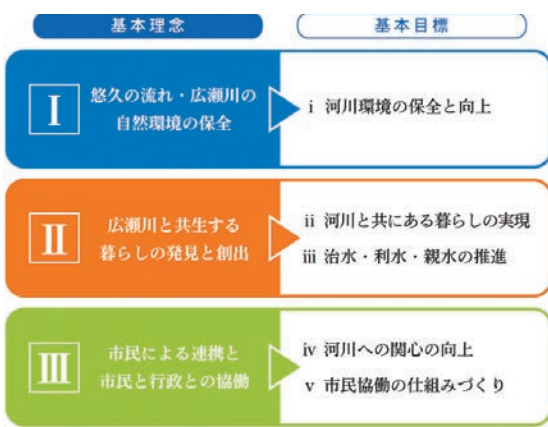
プランの中間見直しで軌道修正

2020年度は現行の広瀬川創生プランの折り返し地点にあたることから、これまでの取組から得られた課題を活動主体へのアンケート調査等から分析し、中間見直しを行いました。

中間見直しでは、SDGs（持続可能な開発目標）の理念を反映し、プランの新たな推進体制を検討することを目的に、4つの見直し方針を定め、広瀬川創生プラン策定推進協議会での議論及び市民への意見募集を行い現行プランの軌道修正を行いました。



広瀬川創生プランの新たな推進体制



広瀬川創生プランの基本理念と新たな基本目標

流域マネジメント、ここが「鍵」

「鍵」その1 広瀬川ホームページ・ インスタグラムで 広瀬川の魅力をPR

広瀬川が持つ魅力、そして広瀬川に関する水文化や水遊び等の様々な情報を広く発信していくこと、さらには広瀬川流域をフィールドとした市民活動の情報交換の場となることを目的として2003年に広瀬川ホームページを開設し、仙台市が運営しています。広瀬川の知識を深めるための専門的な情報、広瀬川の魅力を知るための地図情報やイベント情報、広瀬川流域で活動する団体情報、また広瀬川に関わる写真や動画などが豊富に紹介されています。

また、2020年には仙台市が運営する「広瀬川インスタグラム」を新たに開設しました。

「広瀬川インスタグラム」では、ホームページと同様に広瀬川流域の情報発信を行いながら、幅広い年齢層に利用されている身近なSNSという特徴を活かして、広瀬川の魅力を利用者と共に共有し、広瀬川に対する親近感を醸成することを目的として運営しています。

今後はコミュニティが形成されるよう「#広瀬川」などで情報共有を行うとともに、交流者同士の新たな活動を仙台市が支援することも検討しています。



広瀬川ホームページ

「鍵」その2 「広瀬川自然体験学習」で 更なる魅力を発信

コロナ禍以前は大型イベントとして、5月の大型連休に「広瀬川で遊ぼう」を、夏休みには「作並かつぱ祭り」を開催していました。

2020年からは少数でも楽しめる新たな取組として、「広瀬川自然体験学習」を開催しています。自然体験学習は小学生と保護者を対象に、プロのインストラクターの指導のもと、川の生き物探しや、川での安全な歩き方などを学びながら自然豊かな

広瀬川を体験してもらうもので、広瀬川の更なる魅力の発信に繋がっています。



広瀬川の河川敷には緑地帯や公園などが整備されていて、近所の人たちの交流と憩いの場になっています。

愛宕大橋と霊屋橋の間にある米ヶ袋スポーツ公園には、近所に住むポニーが散歩にやってきます。

時間になると示し合わせたように犬の飼い主さん、子供たちなども集まってきます。

カメラを向けたらポニーに犬を乗せてポーズしてくれました！

#広瀬川 #仙台 #仙台観光 #仙台旅行
#sendai #sendaigram
#miyagigram #宮城 #愛宕橋 #霊屋橋
#ポニー #犬のいる暮らし #犬스타그램 #散歩

広瀬川インスタグラム



広瀬川自然体験学習

「鍵」その3
「広瀬川1万人プロジェクト」で
広瀬川の仲間を結集

杜の都・仙台のシンボルである広瀬川の自然環境を守り、多くの市民が親しめる広瀬川とするため、「100万都市仙台の1%・1万人」をキーワードとして、市民・企業・行政などで構成する実行委員会をつくり活動を展開しています。

主な活動は、春と秋に実施している流域一斉清掃です。特に秋には、1974年に策定された「広瀬川の清流を守る条例」にちなみ、毎年9月の最終土曜日に流域10数ヶ所で一



広瀬川流域での一斉清掃活動

※2021年の一斉清掃は、新型コロナウイルス感染症の影響より春は中止、秋は10月2日に実施されました。



案内チラシ

斉清掃を実施しています。

また、こうした清掃活動をきっかけとして、市民に広瀬川に関心を持ってもらおうと、清掃終了後に芋煮会やもちつき、カヌー試乗会などの参加者の相互交流や、地域のことをよりよく知ってもらうためのエコスクールなど、清掃以外の活動にも取り組んでいます。この活動は、広瀬川に関心を持つ市民の協力により2002年から続けられています。

「鍵」その4
携帯用散策マップ
「広瀬川へ行こう」で
広瀬川に誘う

仙台市河川課広瀬川創生室では、広瀬川流域の魅力伝えるため、6つのコースの散策マップ「広瀬川へ行こう」を制作し配布しています。

- ① 大橋く三居沢コース
- ② 愛宕神社く郡山堰コース
- ③ 広瀬橋く名取川・広瀬川合流部コース
- ④ 仙台宮城ICく上流端コース
- ⑤ 米ヶ袋く大橋コース
- ⑥ 大崎八幡宮く陸前落合コース



携帯用散策マップ「広瀬川へ行こう」

散策マップパッケージでは、6コースのマップが収納されており、各マップでは、表面では沿川の見どころや景勝地、神社・仏閣等が、裏面では地図上に散策のモデルルートが距離や所要時間とともに分かりやすく紹介されています。

なお、この散策マップは、仙台市役所内や仙台市観光情報センター等で配布され、「広瀬川ホームページ」では、各地図のダウンロードや配布場所の情報を得ることができます。

流域マネジメント、ここにも「注目」

注目1 広瀬川で遊んで学ぶ 「カワラバン」による 環境学習と体験プログラム

広瀬川流域での環境学習や体験活動では、地域活動団体である「カワラバン」が2011年より川をテーマとした出前講座や体験プログラムを展開し、子どもから大人までを対象とした広瀬川の体験型の普及啓発に中心的な役割を果たしています。

仙台市や小学校、保育園等と連携し、「川で遊ぼう」「川に学ぼう」考えよう地域の水害防災等の自主プログラムや、「広瀬川で遊ぼう」等の地域行事での協働を通じて、地域の自然に触れて楽しく遊びながら、合わせて川との安全な接し方を学ぶ機会を提供しています。2019年度の出前講座や体験活動は100回を超え、参加者数は延べ4700名ほどでした。



親子向け、学校向けの川遊びプログラム



リバーデイキャンプ



広瀬川で遊ぼうでのEポートとカヌー体験

広瀬川フォーラム
 広瀬川を生かした川づくり・まちづくり
 平成27年 12月20日(日)
 会場 | 仙台国際センター「萩」
 ▶開 場 | 13:00
 ▶フォーラム | 13:30-16:30 (定員観客先着)
 主催 | 仙台市
 協力 | 広瀬川市民会議
 広瀬川五人アソシエーション実行委員会

広瀬川フォーラムの案内チラシ

注目2 広瀬川フォーラムで流域の活動主体が相互交流

これまでの広瀬川と市民との関りを振り返り、今後更に広瀬川がより多くの市民に親しまれるための川づくり・まちづくりを考えることを目的として、「広瀬川フォーラム」を仙台市が開催しています。

本フォーラムは、広瀬川創生プラン策定時やプラン改定時などのタイミングで開催され、広瀬川を学ぶ基調講演や広瀬川流域での活動の話題提供、また広瀬川を生かした地域づくりの総合討論や展示などを通じて、広瀬川流域での活動主体が相互に交流する貴重な機会となっております。

注目3 広瀬川創生サポーター制度で広瀬川の応援団を増やす

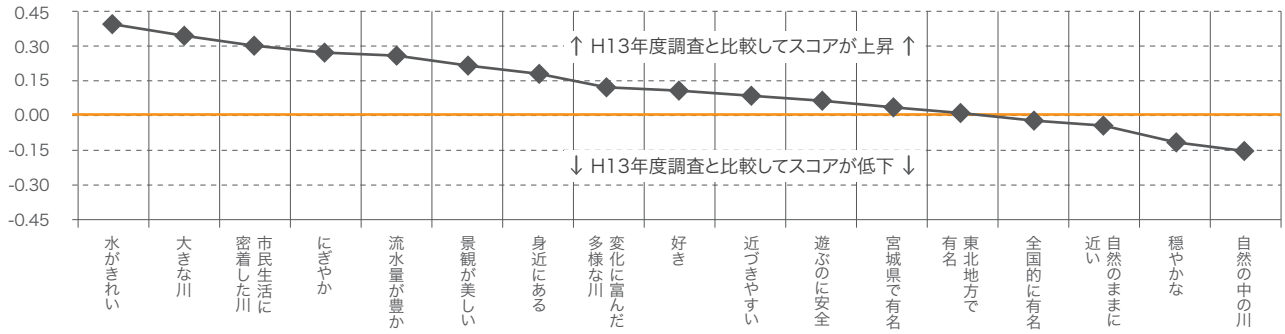
広瀬川において自然環境の保全や賑わいの創出に貢献する活動を行っている団体を、「広瀬川魅力創生サポーター」として仙台市が認定し、さらなる活動意欲の向上を図るとともに、その取組を支援する認定制度を設けています。

活動団体の取組内容に応じて、「広瀬川グリーンサポーター」、「広瀬川ゴールドサポーター」の2つの区分で認定し、認定団体は仙台市ホームページ内の「広瀬川魅力創生サポーターページ」で写真とともに団体名が紹介されています。

仙台市 広瀬川魅力創生プラン
 広瀬川に関する活動に取り組む団体を応援します
広瀬川魅力創生サポーター認定制度
 広瀬川魅力創生サポーターとして活動の促進し、その活動を応援します。市民、NPO、事業者、行政の協働で広瀬川魅力創生に取り組んでください！
 サポーターの種類と支援の内容
 広瀬川 グリーンサポーター
 広瀬川 ゴールドサポーター
 申請・お問合せ先
 仙台市環境局河川課 広瀬川創生室
 TEL: 022-234-6327
 認定申請書のダウンロード
 その詳細はこちらへ
 仙台市ホームページ
 https://www.city.sendai.jp/hirosegawa/kyokai/kyokai.html

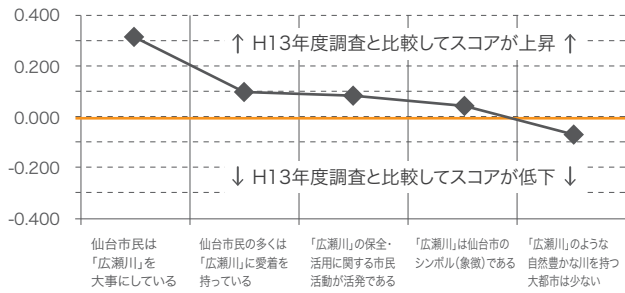
広瀬川創生サポーター制度の案内チラシ

H13年度のアンケート調査時とのスコア比較 (H26スコア - H13スコア)



広瀬川のイメージ

2014(H26)年と2001(H13)年のアンケート調査のスコア比較(2014年スコア-2001年スコア)



広瀬川に対する考え

2014(H26)年と2001(H13)年のスコア比較結果 (2014年スコア-2001年スコア)

※「スコア」は、「そう思う(+2)、どちらかと言えばそう思う(+1)、どちらともいえない(0)、どちらかと言えどそうは思わない(-1)、そうは思わない(-2)」の回答結果に基づき算定された値で、グラフの縦軸は、2014年のスコアから2001年のスコアを除いた値。

2014(H26)年と2001(H13)年に実施した、仙台市民と広瀬川の関わりを把握するためのアンケート調査結果の比較によると、広瀬川のイメージに関わる質問項目及び広瀬川に対する考えに関わる質問項目について、約8割の項目で2014年の方がスコアが高い結果となり、広瀬川に対する市民のイメージや思いが向上していることが分かりました。

活動の効果

広瀬川のイメージと
思いが増加

メッセージ



仙台市建設局
百年の杜推進部河川課
広瀬川創生室
稲垣 憲明さん

広瀬川の魅力を伝え広げていく
ポイントは？

まずは、自分自身が広瀬川を知るために、たくさん足を運ぶこと、そして、川や自然は日々変化しているので、定点観測をすることも必要だと感じています。そういう土台があって、各団体や広瀬川に興味や関心がある人との繋がりや信頼関係を築くことが、魅力を伝え広げていくポイントだと思います。

今後に向けて

多くの活動団体が会員の高齢化や人員不足などの課題を抱えています。それぞれの活動団体の長をを活かしながら、団体同士が連携し、互いに支え合うことが必要です。本市は各団体の活動情報などを発信するとともに、活動団体の連携をサポートするなど、より多くの市民参加につながる活動となるよう支援していきます。

メッセージ



カワラバン
菅原 正徳さん

取組を伝え広げていく
ポイントは？

「地域の川を学習したい」「川での体験活動をしたい」という小学校や保育園のニーズは確実に増えてきています。しかし、予算がない場合がほとんどで、地域に活動を支援できるNPOがあってもマッチングがされていません。仙台市では環境局が主となり両者を結び支援制度を運営しており、学校側は金銭的な負担がなく実施することができます。NPOには市から経費が支払われるため、組織の基盤強化にもつながっています。

今後に向けて

子どもの学びや体験をサポートする事業は、探してみると結構あるのですが、運営する側の意向が強すぎて使いにくいものが多いのが現状です。川での体験活動は人を育む大事なプロセスです。将来、流域の保全を担う人材の育成に何が必要かを真剣に考え、慣例にとらわれない仕事をする大人が今必要とされています。もちろんNPOも公に頼らずに事業を遂行するための努力を惜しんではいけません。(自戒を込めて)